

北海道 深川市  
&  
株式会社 HPRS

廃校活用事例発表

令和5年10月20日



# 1. 深川市のご紹介

- ▶ 北海道のほぼ中央に位置し、札幌と旭川にも近いことから、交通の便に優れています。
- ▶ 農業を基幹産業とし、米、りんご、メロンなどの農産物や果樹のほか、深川牛、ふかがわポークなどの畜産も盛んです。
- ▶ 北海道第一の長流石狩川と雨竜川に開ける平地に水田や畑が形成され、その肥沃な大地と寒暖の大きな気候から、収穫物は甘みが強いものが多い
- ▶ 人口：18,931人（R5.4末）
- ▶ 面積：約530Km<sup>2</sup>





## 2. 深川市の沿革と学校

- ▶ 昭和38年に近隣4町村が合併し、深川市が誕生。
- ▶ 昭和45年に多度志町（事例発表の学校所在地）が合併し現在に至る。
- ▶ 昭和45年 児童数3,834人、生徒数2,057人
- ▶ 令和5年 児童数 681人、生徒数 354人
- ▶ 学校の設置状況
  - ▶ 昭和45年は、小学校13校、中学校8校
  - ▶ 現在、小学校6校、中学校2校
  - ▶ 平成26年3月に3校を閉校
    - 1) 納内（おさむない）中学校
    - 2) 音江（おとえ）中学校
    - 3) 多度志（たどし）中学校（事例紹介）

## 3. 廃校活用への対応

- ▶ 学校跡地等に係る庁内組織の設置
  - ▶ 閉校の1年前に組織
  - ▶ 連絡会：副市長を座長、教育長及び各部長を委員とした構成
  - ▶ 小委員会：教育部長を座長、各課長を委員とした構成
- ▶ 連絡会等の対応内容
  - ▶ 閉校する学校の情報共有し、各所管で関係者に周知
  - ▶ 庁内での活用の検討
- ▶ 対応例
  - ▶ 閉校する地域に対策協議会を立ち上げ、市と地域が連携
  - ▶ 北海道内の学校法人に教育施設での活用案内送付（256法人）
  - ▶ 企業誘致関係の制度案内に廃校情報を同封（1600社）
  - ▶ 文部科学省様の「みんなの廃校プロジェクト」への掲載
  - ▶ 地元金融機関への情報提供



#### 4.活用1 納内中学校 クラーク記念国際高等学校 硬式野球部専用施設

- ▶ クラーク記念国際高等学校（以下「クラーク高校」）は深川市に本校を置く広域制高等学校
- ▶ 平成25年12月にクラーク高校から譲渡の要請
- ▶ 平成26年5月に無償譲渡
  - ▶ 平成26年度創設の硬式野球部専用施設として活用（写真下）
    - ▶ 部員寄宿舍、屋内練習場、甲子園と同じサイズの野球場を整備
  - ▶ 春夏で計4回甲子園に出場
  - ▶ 地域主体の後援会が設立され、部員も地域行事に積極参加

## 5.活用2 音江中学校 合宿の里ふかがわ

- ▶ 深川市では平成7年からスポーツを中心とした各種合宿招致活動に取り組んでいる
- ▶ 合宿招致活動に欠かせないイベントとして、夏には「ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会」が開催され、国内中長距離界のトップランナーによる熱戦が繰り広げられている（写真上）
- ▶ 地元農産物を使用した美味しい食事の提供や、田園の中の走りやすい環境、冷涼な気候など、まちの資源を最大限に活用した取り組みとなっていたが、宿泊収容能力の不足が課題となっていた
- ▶ 閉校となった校舎を活用し、公設民営方式により平成30年4月に宿泊施設「深川市学びと集いの郷音江広里交流館エフパシオ」としてオープン（写真下）。以降、合宿招致活動の中核施設としてトレーニングルームや酸素カプセル、スキーやスノボ用のワックスルームなどを順次整備



## 6. 多度志中学校の 施設概要

### ➤ 施設等概要

- 校舎2,251㎡、屋内運動場600㎡、敷地46,236㎡
- 自転車小屋、部活動物品庫、倉庫（旧木造校舎の一部）
- 敷地内に校長住宅、教頭住宅、教職員住宅2戸1棟

### ➤ その他

- 雨竜川が近い地域のため、洪水時の避難場所に小高い場所にある本施設を使わせてほしいとの要望があった。



## 7.活用までの経緯など

### ■ 市の方針

- 地域の活性化・経済効果が見込まれること
- 校舎と屋内運動場の一括利用であると（一部利用は認めない）

### ■ 取り組み

- 文科省「「みんなの廃校」プロジェクト」に掲載
- 市のホームページ、広報等に掲載
- 地域住民対象の見学会開催
- 深川市企業立地優遇制度等の案内文書に利活用案内同封

### ■ 活用までの主な管理や対応

- 草刈り、屋根や屋上の雪下ろし等、最低限の管理
- 雪害による屋根の修繕（当地は市内でも積雪が多い地域）
- 活用問い合わせ対応
  - 電話や現地確認対応等
  - 期間限定の一部敷地利用はあった

### ■ 課題

- 維持管理のほか、未使用による老朽化の加速（特に冬期間）







水槽のテラピア  
水耕栽培のフリルレタス



## 8.活用の決定

- (株) HPRS様は地元信用金庫からの紹介
- 施設活用・提案内容など
  - 学校施設に加えて敷地内の教職員住宅も一括活用希望
  - 地域も安心の事業内容
    - アクアポニックス※による植物工場
    - 将来的に地元雇用も期待できる。
  - 地域との繋がりを大切にしたい意向
    - 避難所開放、旧中学校の施設に対する地元住民の思いを理解
- 上記から活用を決定し、地元に説明後、無償貸与へ

※アクアポニックスとは、水産養殖の「Aquaculture」と、水耕栽培の「Hydroponics」からなる造語で、魚の養殖と植物の水耕栽培を同時に行うシステム

## 9.無償貸与契約の内容

### ➤ 経過

当初一括無償譲渡を前提に協議したが、施設規模が大きく固定資産税が経営の負担になるため、当面は無償貸与となった。

### ➤ 無償貸与契約

- 期間：令和元年11月から令和7年2月まで（約5年間）
- 施設の維持管理経費及び小規模修繕等は借主が負担。
- 大規模修繕等はその都度協議。
- 施設改造や敷地の地目変更が伴うような使用に関しては事前協議
- 契約満了後は、再協議（現在協議中）





## 10.まとめ

- ▶ 廃校活用はご縁
  - ▶ 本市の廃校活用は、地元の企業や学校などとの繋がりや紹介などのご縁で決まっている。
- ▶ 活用について
  - ▶ 地元理解が必須。活用後の協力が得られやすい。
- ▶ 手続き等は早急に
  - ▶ 民間（借主）と役所の時間の感覚に合わせる。役所の都合で時間が経過すると企業の損失などが発生する。
  - ▶ 財産処分の手続きには時間が必要なため早めに対応
    - ▶ 財産処分手続きハンドブック（文部科学省）では処分予定時期の
      - ▶ 承認申請書は3か月前、報告書は2か月前
    - ▶ 【注意】都道府県経由のため、+1か月
      - ▶ 事前に都道府県の担当者への確認をお勧めします。

# ご清聴 ありがとうございました

北海道

深川市教育委員会

学務課

発表者 学務課長 佐藤

電話 0164-26-2332

